

## ■お客さまの声～ありがとうございます～

皆様からお寄せいただくご感謝の声は、私たちがプロとしてFPサービスを提供し、改善し続けるために役立つとともに、この仕事をしていく上で最大のエネルギーになります。どうもありがとうございます。今回御紹介するお客様は、本格的な保険見直し相談である「保険見直しサポートパック」を御利用された浜松市南区にお住まいの20代主婦のAさまです。Aさまは最初、保険料の負担が大きくなるとか軽く出来ないか？しかし、むやみに保険を減らしてしまつては万が一のとき不安という、心配しておられました。しかし、保険見直しの小冊子を読んだり、勉強会に参加されて、保険見直しの仕方を学んでいくうちに、ムダな部分・過剰な部分があることがわかり、本格的な見直しの相談と一貫したアフターフォローを御希望されました。そして、**保険見直しサポートパックを御利用いただくことで、必要な保障を確保しながら、ムダな部分を一切カット。結果として、トータルの保険料を大幅に削減することができ、「一人ひとりにあった保険を紹介してくれたので本当に助かりました」という、非常にありがたい**

保険見直しサポートパックを利用しました。自分だけではない会社の保険資料を集め、比べることは時間もかかりとても大変なことだと思えます。プロのFPにお願いすることで目先のことだけでなく、将来的に保険金額のトータル支払い額を減らすことができました。少し前までは見直しは必要ない気がしていましたが、見直すことにより保険の種類や料金の差にびっくりしています。カウンセリングをしてもらうことにより、一人一人にあった保険を紹介してくれたので本当に助かりました。サポートパック利用後のアフターフォローとして無料で保険の相談にのってくれたりもできるのでまた何かの時に利用させてほしいと思います。

ありがとうございます  
＜浜松市在住・A様＞

著作・発行 浜松ファイナンシャルプランナーズ事務所株式会社  
運用や預貯金の見直し、保険見直しをご検討中の方は**イマズグ電話無料ガイダンス (053-474-8266)** をご利用下さい。

〒433-8122 静岡県浜松市中区上島2-1-3 1F  
Tel: 053-474-8266 Fax: 053-476-0159 携帯: 090-5616-1263  
メール: yamachan0511@ybb.ne.jp  
ホームページ: グーグルで「浜松 FP」と入力して一番最初にでてくる。 (従来のURLは廃止しました。)

山中崇寛: やっぱり食欲の秋! な、プロプロ(?) FP  
大石ゆき: 秋祭りの役員で、バテバテになってしまった保険見直しFP!!  
上野陽子: 舌っ足らずで、すぐカミカミになってしまう事務員。  
＜スタッフのひとりごと: 担当 上野＞

作成した看板にミス発覚!! 電話番号が1箇所逆になってしまっていました(@\_@) 弊社の確認ミスなのですが、看板を作成してくれた業者さんがとても親切で、かなり安価で直してくれました。しかも、数ミリ単位の修正にもう一度来てくれました。そのこだわりが職人さんらしくて、とても感激しました!! さくら工房さん、本当にありがとうございます



# ありがとう通心

2007-11  
第31号

浜松ファイナンシャル  
プランナーズ事務所

第1号から読みたいという方はご連絡ください(053-474-8266)。  
当社のホームページからもダウンロードできるようになりました。

## 今月のトピックス

- ・インドに行ってきました(山中)
- ・どうする?! 今後の家計(大石)
- ・『臓器移植』について(上野)
- ・お客さまのご感想! ありがとうございます。

今年とはどんな年でしたか?  
食品や日用品、ガソリン、  
灯油など、多くの値段  
があがった年でもありますね。  
山中崇寛



毎週金曜日の午前9時から、SBSラジオで放送されている「ラジオWEST」に出演しています。毎月第3金曜日の月1回の出演です。今月は、  
11月16日 金曜日 11時25分～

追伸: 放送の内容は、翌週のびぶれ浜松にも掲載されます。

## ■こんにちは。

大人になって”漫画”にはまってしまったファイナンシャルプランナーの山中崇寛(やまなかたかひろ)です。ちなみに今のお気に入り、キン肉マンⅡ世だったり、大人になったキャプテン翼だったり、ガンダムシリーズだったり……。子供ころは、マンガを買うのはもったいないということで我慢してましたが、大人になった今、漫画喫茶にて安価で「漫画読み放題!」にはまっています。11月になりましたね。11月といえば、焼きものの美味しい季節でございます。アツアツのホクホクを自分で皮を剥き、何も考えずに夢中で頬ばる。口の中に広がる、あの甘く、なんとも言えないお味。そして食べたときの満足感。嫌いと言う方は少ないでしょう。

## ■インドにいつてきました。

さて、10月の上旬に新婚旅行でインドに行ってきました。なぜインドなのか?そこにゆけば、どんな夢も叶うというところがあるからです。その国の名は、ガンダーラ。どこかにある、ユートピア……。



(写真: タージマハールと山中)

という、ボクの大好きなゴダイゴの歌があります。ちなみに、♪They say it was in INDIA♪ということで、インドに行くことになりました。しか～し、調べてみると、現在そこはアフガニスタン。もちろん、危険地帯なのであきらめました(;;)。

それから、もう1つの理由としまして、手塚治虫氏の「ブッダ」を読んで。インドは、ヒンズー教ですが、仏教発祥の地ということもありさまざまなブッダにまつわる遺跡を見学してきました。そんなボクは無宗教です。

## ■沐浴

沐浴とは、身体的・宗教的な穢(けがれ)を落とすことです。観光内容は、ガンジス川へいき、沐浴を見学……とあったのですが、せっかくそこまでいったのであれば、経験しないともったいない……。ということで、ガンジス川に入ってきました。これで、心身ともにきれいになった?ことと思います



↑  
ガンジスの朝5時半(上)と





# 『臓器移植』について



上野陽子です。先日、1泊2日というハードスケジュールで、娘(小2)と友人親子と博多旅行へ行って来ました!! 娘は初飛行機♪ 空の上で、速さの実感がなかったようで「これ(飛行機)遅いね〜・・・」と言っていた娘で

今年10月に、臓器移植法の施行が10周年を迎え、各地でイベントが開催されたり、記念ピンバッジ(10thグリーンバッジ)が作成されたりしました。

数年前から、臓器提供意思表示カードを携帯している私は、新聞のこの記事を読み、少し調べてみることにしました。

臓器移植とは、『臓器の機能が低下し、移植でしか治らない人と、死後に臓器を提供してもいいという人を結び医療』のことで、日本では、昭和54年から心臓停止後の腎臓の移植が行われていましたが、心臓・肝臓・肺などの臓器が、重度の病気になられた患者さんは、移植を希望しながらも亡くなられていました。

しかし、1997年に『臓器移植法』が施行されたことにより、心臓停止後の腎臓と角膜の移植に加え、脳死後の心臓・肝臓・肺・腎臓・膵臓・小腸の移植が法律上可能になりました。

『脳死』とは、**大脳**(知覚・記憶・判断・運動の命令、感情などの高度な心の働きを司る)、**小脳**(運動や姿勢の調節をする)、**脳幹**(呼吸・循環機能の調節や意識の伝達など、生きていくために必要な働きをする)の、**全ての機能が失われた状態**をいいます。

間違われやすいのが『植物状態』で、植物状態とは、**脳幹の機能が残っていて、自ら呼吸できる場合が多く、回復する可能性**もあります。なので、脳死と植物状態は、根本的に全く違うものです。

世界のほとんどの国で『脳死は人の死』とされていますが、日本の臓器移植法では、**臓器を提供する意思がある場合に限り『脳死を人の死』**としています。

ドナー(提供者)候補が現れてから、移植手術が行われるまでの流れは、**脳死と判断**→臓器提供意思表示カードなどで、臓器提供に関する本人の**意思表示**、または家族から、臓器提供の説明を聞きたい、などの**申し出**→移植コーディネーターが家族と**面会**→臓器

提供の**承諾**→法律で定められた**脳死判定**2回・同時に、最も適したレシピエント(臓器の提供を待っている患者さん)の**選択**→選ばれた**レシピエントの診察**→移植施設から**摘出チーム**がドナー発生施設に向く→医学的に提供を受けられる状態であると**判断**→臓器を**摘出・搬送し、移植手術**・・・となります。

もし、ご家族が臓器提供の説明を拒んだら、直ちに**中止**となります。

脳死後に臓器を提供したいと思った時、その意思をきちんと提示する必要があります。それが『臓器提供意思表示カード』です。

本当に提供できるかどうかは、その方が一の際に、様々な条件の中で決まります。

たとえば、きちんと**記入**された臓器移植意思表示カードが、**心停止前に発見**されること、運ばれた病院が**臓器提供指定施設**(浜松では聖隷病院・医大など5ヶ所)であること、**脳死判定**されること、提供したい臓器が**健やか**(感染症やガンではない)であること、**家族が同意**してくれること・・・など、いろいろあります。

平成19年10月現在、移植を待っている患者さんは、心臓99名・肺133名・肝臓165名・腎臓**11,746名**・膵臓150名・小腸2名で、高齢化や食生活の向上によって、**糖尿病性の腎不全患者**が急増していることもあり、腎臓の移植希望は群を抜いています。

『脳死後に臓器を提供したい人』は平成10年の31.6%から**41.6%へと増加**を続け、『提供したくない人』(27.5%)を大幅に上回るようになりました。**移植医療への理解**は深まっていると考えられますが、まだまだ**ドナー不足**は深刻です。

この**臓器提供意思表示カード**は、市区役所・保健所・郵便局・運転免許試験所・一部のコンビニに置いてあります。この記事を読んで、1人でも多くの方が**臓器移植に関心**を持って頂けたら、とても嬉しいと思います。

《臓器提供意思表示カード》



# ママ&プレママ必見！ どうする？今後の家計



大石ゆきです。長男(小五)長女(小二)、次女(年長)の3児の母でもあります。町民運動会に参加!! 家族全員2種目ずつ出場。貢献しました。結果?...参加することに意義があるってことで...(-;-)

上記の通り、私には3人の子どもがいます。同じように**子育て世代の皆さんは、今後の家計について少なからず悩みや不安を抱えていると思います**。それはFPであっても、ママである私も同じです。

なぜ不安になるのでしょうか?それは未来が見えないからです。今後の収入と支出が分かれば、不安は軽減されます。お化け屋敷が怖いと同じですね。先が見えないのは、人にとって、とても不安なことなのです。今月は我家を例にとりながら、子育て世代の今後の家計について考えていきたいと思います。同じように**今後の家計に不安を感じているママ&プレママのみなさん、必見です!!**

私たちFPは「**どんな状況になってもお金に困らない**」ということを、いつも念頭に置くよう心がけています。もちろん一番危惧されるのは「一家の大黒柱であるパパに万一のことがあったら、その後の生活は大丈夫かしら?」というものでしょう。

「今の生命保険はこれで足りてるのかしら?」「パパに万一のことがあっても、ちゃんと子供を大学まで行かせてやれるかしら?」などなど...

でも不安は、パパに万一のことがあったときだけではありません。家族全員元気なら、それはそれで支出は多いですね。教育費、住宅ローン、車、老後の生活のためにも貯蓄が必要です。

ここでは主にこの二つ、  
①**パパの万一の場合**  
②**今後もみんな元気でいた場合**  
について考えます。また**これら2つは密接に関係しています**。

まずは①。子育て世代の**パパは、ほとんどの方が何かしらの生命保険に加入していること**でしょう。でも**保険金額を綿密に考えて加入している方は少ないのが現実**です。私は今、パパに万一のことがあると、その先は女手一つで子供

ります。大学進学が昔に比べて「普通」のこととなっている現代、**大学進学を望む我が子を止めることはしたくありません**(本人が大学進学を望まなければ別ですが...)。また子供を育て上げたあとも安心はできません。**お金は生きている間中、使うのですから**。では生命保険はたくさん掛ければ掛けるほど良いのでしょうか。そうではありません。掛けすぎれば当然保険料が高くなります。これは②に関係してくるのです。

家族がみんな元気でいた場合、**住宅ローンを抱えながら、教育費を貯蓄することになります**。私立大学の費用が4年間で約400万円、仕送りを月10万円(10万円で足りる?)とすると4年間で480万円。一人につき合計900万円かかります。

我家では900万円×3人で2,700万円が大学費用として見込まれます。一人目が大学に入学してから、三人目が大学を卒業するまで9年。毎月の収入から10万円を9年間支出するとして1,080万円はその時支出します。

**残りの1,620万円を貯蓄で用意しなければいけません**。

さらに老後の生活資金です。私たちが60歳になる頃には、60歳で退職しても65歳までは年金がもらえません。夫婦二人で年間300万円を生活すると60~65歳までの間に1,500万円必要です。65歳以降年金を受給し始めても、きっと年金だけでは足りないでしょう。65歳以降のための蓄えとしても1,000万円以上は必要です。つまり教育費とは別に、**60歳までに2,500万円以上の貯蓄が必要なのです**。

我家では現在でも月に約7万円の教育費が掛かっています(習い事含む)。住宅ローンも抱えています。そういった中でも、**貯蓄は着実に進めていかなければいけません**。だから今、ムダな出費はできないのです。つまり生命保険も必要かつ最小限で用意しておかなければいけません。「パパが亡くなったら、苦しい生活から、一転お金に余裕ができた!」なんて、ちょっと笑えない話です。

未来のことは分かりませんが、どの家庭でも①または②の未来があることは確実です。